



国土交通省では、3年目の今年度を「深化の年」として、「生産性革命」を加速させるため一層の普及推進を図っているところです。

北陸地方整備局においても、ICT技術活用の拡大、コンクリート工の生産性向上、施工時期の平準化を推進し、建設現場のプロセス全体の最適化を図り、魅力ある建設現場の実現を目指していきます。

最新ニュース

『現場支援型モデル事業にて体験見学会を実施』

○国土交通省では、ICT活用工事を建設事業の大半を占める地方自治体工事に普及するため、自治体発注工事をフィールドに現場支援型モデル工事を実施。当事業では、実施自治体を含む北陸ICT戦略研究会の下で、ICT活用を前提とした工程計画 立案支援や、ICT運用時のマネジメント指導による好事例創出、効果検証及び普及活動を支援しています。

今年度は、富山県発注の工事においてモデル事業を実施しており、ICT機器の体験見学会を開催しました。

『ICT河川浚渫工事の現場見学会を実施』

○平成30年度から新規工種となったICT河川浚渫工事の現場(北陸地整第1号)で見学会を実施しました。

本号の掲載内容

ICT技術の活用	現場支援モデル事業、ICT河川浚渫工において見学会を実施
規格の標準化	なし
施工時期の平準化	なし

現場支援型モデル事業の体験見学会を実施

12月5日(水)、富山県発注の「主要地方道滑川上市線県単独道路改良工事」の現場において、県内の建設業者、自治体職員を対象に ICT機器の体験見学会が開催されました。

- ・実際にICTバックホウに搭乗
- ・モニターを見ながら、MG(マシンガイダンス)による法面整形を体験

・ ICT機器の説明



・ ICTバックホウによる施工状況



- ・3D設計データの活用
- ・現場端末を見ながら、測点の位置出しを体験



ICT活用工事の工種拡大 ICT河川浚渫工

・今年度より、ICT活用工事の新規工種としてICT河川浚渫工を導入



・ICT建機のバケット軌跡記録機能を使い掘削と同時に出来形管理を実施
・従来の出来形計測が不要

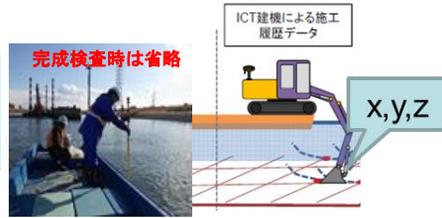
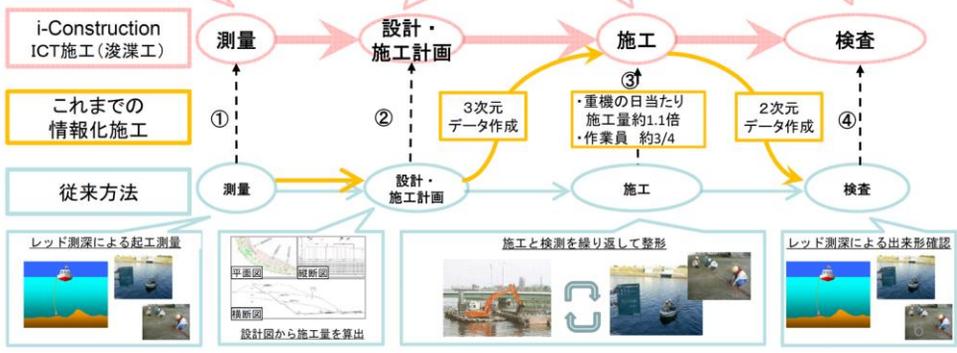
<バケット軌跡記録機能>
バケット先端の位置情報と時刻ログから軌跡を記録する機能



・ICT建機による施工後速やかに段階確認を行う 1工事に1回程度

・立会においてTS等により、実測値と設計値を比較し、規格値に入っているかを確認

・完成検査(実地)における実測は、段階確認の実施により省略

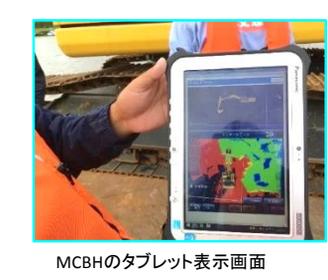


ICT河川浚渫工の現場見学会を実施

・北陸地整管内第1号として信濃川下流河川事務所発注の「新光町やすらぎ堤その6工事」にてICT河川浚渫工を実施
・9月26日(水)に北陸ICT戦略研究会主催で建設業者を対象に現場見学会を開催しました

【見学会概要】

- ・新光町やすらぎ堤その6工事の受注者である(株)小野組の協力のもと開催し28名が参加
- ・以下の説明後に、引き船で現場に向かい、MCBH(マシンコントロール・バックホウ)での浚渫施工を見学
 - ①スケジュール、補助金、税制優遇措置の説明: 事務局
 - ②事業及び工事概要説明: 信濃川下流河川事務所
 - ③ICT浚渫工、ICT河川浚渫工(台船バックホウ)の説明:(株)小野組
 - ④3次元設計データ作成・出来形管理の説明: 受注者が自ら説明



・参加者は、GNSSの通信状態や、納品書類、ICT活用のメリットなどについて受注者に熱心に質問



i-Construction推進本部 事務局

(問い合わせ先) 北陸地方整備局 地方事業評価管理官 (2118)
 企画部 技術管理課長 (3311)
 企画部 施工企画課長 (3451)
 〒950-8801 新潟市中央区美咲町1-1-1 新潟美咲合同庁舎1号館 Tel025-280-8880(代)